

219) すぎ去りし日

あしおと 登音もなく秋はすぎ去り 季節はいつもめぐ 廻る旅人
季節の流れを確かめるよに 心開いて立ち止まるとき
あなたのことをそっと偲^{しの}んで 愛されし日を心にさがす
季節の流れを追いかけて すぎ去りし日は夢になる

じっと見つめるあの眼差^{まなざ}しが いつもわたしを優しく包み
過去を背負った女と知って あなたわたしを愛してくれた
そんな気持ちを^{もてあそ}ぶよに あなたの^{こころ}情はぐらかしたの

こみあげてくる涙のつぼみ こらえるように瞳を閉じて
心の奥に取り残された あの日の想いたどってみれば
愛した人はいつか忘れて 愛してくれたあなたを^{おも}慕う

今気づいても遅すぎるけど あなたの愛が心にしみる
後悔しても帰らざる日々 ^{とき}季節の流れがわたしを叱る
今の気持ちをたいせつにして 出逢った頃のあなたに逢いたい
^{とき}季節の流れを追いかけて すぎ去りし日は愛になる
季節の流れを追いかけて すぎ去りし日は夢になる